

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(榛沢小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
榛沢小	下回った	下回った	下回った
埼玉県	67	64	65
全国	65.6	63.2	63.3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	榛沢小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	100.0	94.8	94.4
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	72.7	83.0	81.5
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.4	91.2	90.4
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	12.1	13.0	13.8
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	75.8	74.0	71.1
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	94.0	81.6	78.2
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	87.9	81.7	77.3
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	18.2	26.5	25.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	72.8	60.7	59.2
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	90.9	93.1	91.8
	算数の勉強は好きだ	63.6	62.4	62.5
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	91.0	94.0	93.3
	理科の勉強は好きだ	84.8	81.1	79.7
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	81.8	78.7	77.2
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	90.9	61.6	58.2
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	75.7	46.6	43.9
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	36.4	23.2	22.5
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	24.2	22.9	21.7
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	21.2	9.4	9.2
その他	自分には、よいところがあると思う	81.8	82.0	79.3
	将来の夢や目標をもっている	90.9	81.3	79.8
	人の役に立つ人間になりたいと思う	93.9	97.5	95.1
	今住んでいる地域の行事に参加している	57.6	50.4	52.7

公表

【質問紙分析】

- ・「昨年度までの授業で、週に3回以上 ICT 機器を使用した児童」の割合が、全国よりも30%以上も多い。iPad への児童の関心の高さ、教員が積極的に授業に iPad を活用しようとする意識が強いことの表れだと考える。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童」の割合が、約9%全国よりも低い結果であった。放課後の習い事をしている児童も多い。また複数の習い事をしている児童も多く、曜日によって帰宅時間も異なるために、就寝時刻も違ってしまふのだと考えられる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- ・○1ー

(理由) 出題の趣旨は「話し言葉と書き言葉の違いを理解する。」である。話し言葉は、今回の同音異義語や語尾の表現により相手に誤解されやすいことがある、ということ国語だけでなく、道徳や学級会を通して指導している成果であると分析した。

- ・●2二

(理由) 出題の趣旨は「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」である。会話や行動、様子をそれぞれで読み取ることができののだが、それらを結び付け全体像を自分の想像を働かせながら記述することが今後の課題である。

【算数】

- ・○1 (1)

(理由) 出題の趣旨は「被乗数に空位のある整数の乗数の計算をすることができる」である。整数×整数の乗法を位に気を付けて計算できるよう、学校や家庭学習の際にプリントや ICT を活用し繰り返し学習した成果である。

- ・●1 (4)

(理由) 出題の趣旨は「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。」である。四捨五入で数を概算する処理はできるが、数を大きくみたり小さく見たりして、どの方法がその場面において最適であるかを思考判断する力を身に付ける必要がある。

【理科】

- ・○1 (1)

(理由) 「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えを持つことができる。」である。普段の授業でも、得られた情報から予想し解決の方法を見出し、仮説をたてる流れで学習している成果である。

- ・●4 (4)

(理由) 出題の趣旨は「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している。」である。解答から、2つの異なる事象の理解はできているが、科学的な言葉の理解が正しく定着していないと考えられる。

【国語】

- ・ iPad を積極的に授業で活用しているが、長文をじっくり読んだり書いたりする経験が少なくなってしまうのではないか、という懸念が依然残る。授業では、物語文・意見文・説明文をしっかりと区別し言語事項や文章構造、要旨、要約、筆者の主張等を確実におさえた学年の段階に応じた指導を確実に実施する。
- ・ このような問題に慣れていなく、時間配分や問題傾向で戸惑いを感じている児童もいる。問題では、①何を聞かれているのかを正確に読み取る ②文章から必要なところを見つけ出す ③条件に合うように記述する、これらのステップでの答え方(記述)を教え、類似の問題に取り組むことが必要である。そこで、週 1 回配信される新聞記事を活用し、①～③のステップで問題に取り組む。

【算数】

- ・ 概数の問題に関しては、四捨五入等の基礎・基本的事項の理解はしている。引き続き、基礎・基本の習得には、ICT を活用し多くの問題に触れ確実に力を定着させる。習熟度別学習や少人数学習の際に、基礎・基本的事項を用いた発展的学習を意図的に取り入れ、既習事項の日常生活での活用をめざす。
- ・ 算数の力を高めるためには全ての学習の基礎となる国語力(問題文の読み取り・記述・情報の取捨選択等)を向上させることが必須である。授業の中で、自分の考え方や求め方を生み出す時間を多く取り入れ、なおかつアウトプットできる授業展開にする。友達の考えと自分の考えを比較すること、教えること、説明することは理解の定着や深化への近道になると考える。

【理科】

- ・ 基礎事項の知識は習得しているが、何となく理解しているような状態だと考える。科学的な概念や言語を正確に理解する必要がある。単元終了後に、学校や家庭でドリルパークを繰り返し行い、多くの児童が基礎事項の定着が確実にできるようする。
- ・ 実験結果を分析し、自分の考えを導き出すことに力を入れる指導をする。そこには課題(問題)に対して正対する視点が必要になる。課題が求めているまとめを、結果から引き出すということが大切。実際の授業の時も課題文の国語的な読解をし、何を求められているのかを正確に理解し、時には解説を取り入れる指導を今後も実施する。

【その他】

- ・ 家庭での課題は、国語や算数のドリル学習が中心だが、基礎事項を正確に定着させるために iPad を積極的に活用し反復学習を実施する。児童の興味も高く、継続的に行えば効果が上がると考える。